



学校だより

令和7年11月26日

東京都立石神井特別支援学校

校長 中島 由美子

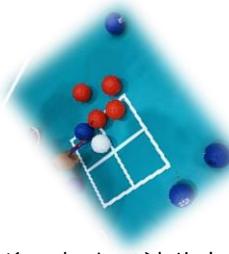
2学期の終業式まで残りひと月ほどとなりました。校内では12月の学習発表会に向け、最高のステージを御覧いただけるよう各学年で力を合わせて取り組んでいます。多くの皆様に本校へお越しいただき、子供たちに声援を送っていただけますようお願いいたします。

東京デフリンピック（国際的なきこえない・きこえにくい人のためのオリンピック）が開催されました。今年は100周年の記念すべき大会となり、日本では初めての開催でした。都立ろう学校の生徒も選手として出場し、メダルを獲得するなど活躍しました。

大会の直前、本校ではデフリンピックの応援と理解を深めようと、空手の女子全日本代表選手に来校いただきました。代表選手の湯澤葵さんや高橋朋子監督が身にまとった全日本の胴着がまぶしく、中学部の生徒たちはたくさんの笑顔と手話で拍手の表現をして声援を送りました。お二人の講師から空手の挨拶や礼儀作法、切れのある技・動きを学び、一緒に体験しました。生徒たちは、「がんばってください」と手話で力強いエールを贈り、作業学習で作製した記念品を手渡して別れを惜しみました。



その後、湯澤さんはデフリンピックの空手女子団体形に出場し、練習の成果を見事に発揮して金メダルを獲得されました。長年努力を続けてきたことが実を結び、多くの人に感動を与えました。感謝とともに心からお祝いしたいと思います。



小学部では、毎年恒例となっている練馬区立石神井台小学校の児童と交流を行いました。今回は4年生の皆さんのが来校し、パラスポーツの「ボッチャ」の競技と一緒にを行い、楽しい時間を共有しました。真剣な勝負に体育館中が熱気と歓声で包まれました。

今後、都立石神井高等学校との音楽交流や旭出学園との交流、練馬区立石神井台小学校・大泉第二中学校との展示交流などが続きます。

身近な地域で生活する同年代の児童・生徒と同じ時間を共に過ごすことで感じることも多くあり、豊かな心が育まれる機会となっています。「日常」ももちろん大切ですが、いつもと違う場や集団での経験は、新たな扉を開けるきっかけになり心も一層動いたことでしょう。

最後になりますが、お忙しい中、保護者や関係の皆様の学校評価アンケートへの御協力をいただきありがとうございました。たくさんの貴重な御意見を今後の学校教育の充実のため、子供たちの成長につなげられるよう生かしてまいります。

■小学部2年 遠足

10月28日（火）に東京都立井の頭自然文化園へ行きました。当日は天候に恵まれ、日差しが暖かく感じられる遠足日和でした。欠席する児童もなく、38名全員で行くことができました。文化園では3グループに分かれ、それぞれのペースに合わせて園内を見学しました。事前学習で映像や写真を見たカピバラ、やぎ、さるなど見つけて指差したり、「〇〇いたね」と話したりと楽しむことができました。芝生広場では、好きなものが入ったお弁当に喜んで、美味しそうに食べていました。帰りは駐車場に停まっているスクールバスまで、頑張って歩きました。昨年度の遠足に比べ、落ち着いてお弁当を食べたり、しっかり歩くことができるようになったりと、成長を感じた1日でした。

(小学部2年 中沢 雅美)



■中学部1年 移動教室

10月30日（木）、31日（金）の2日間、中学部1年生は高尾方面へ移動教室に行ってきました。

初日は紅葉の始まった高尾山に登りました。ケーブルカーを利用して、普段はなかなか見ることのできない山の景色を楽しみ、生徒たちの笑顔もたくさん見られました。ケーブルカーを降りてからは、約20分歩いて薬王院へ。天狗で有名な高尾山では、天狗の銅像と記念写真を撮るなど、思い出に残るひとときを過ごしました。下山後は清竹駅付近でお土産を購入。自分で選んで買う、という体験も生徒にとって貴重な学びとなりました。その後、宿泊先である「高尾の森わくわくビレッジ」へ移動し、みんなで楽しく入浴したあとは夕食をしっかり食べ、疲れもあってぐっすりと眠りました。

2日目は施設内で体験プログラム「恐竜発掘」と「間違い探し」に取り組みました。「恐竜発掘」ではトンカチを使って砂の塊を割り、中から恐竜の模型が出てくると生徒たちは大喜び。「間違い探し」では、施設内を巡りながら動物のイラストの違いを探し、集中して取り組む姿が見られました。

移動教室は生徒にとって、友達と一緒に「楽しいお泊まり会」のように感じられるかもしれません。この宿泊学習には、学校や家庭ではなかなか経験できない多くの学びが詰まっています。普段は家の人に任せていることを自分でやってみる、自分の持ち物を管理する、係の仕事に責任を持って取り組む、そして自宅以外の場所でも落ち着いて過ごす、などです。今回の移動教室を通して、生徒一人ひとりが何か一つでも「次への成長のきっかけ」を見つけてくれていたら嬉しく思います。

(中学部1年 押田 修平)

